

平成25年 1月25日開催

石狩市教育委員会会議（1月定例会）資料

<報告事項>

- 1 平成24年度石狩市・恩納村中学生交流事業について・・・P 1
- 2 平成24年度石狩市教職員研修「ウィンターセミナー」
実施報告について・・・P 2
- 3 浜益区における暴風雪による教育施設の被害について・・・P 3～P 4

石 狩 市 教 育 委 員 会

＜報告事項 1＞

平成24年度石狩市・恩納村中学生交流事業について

【日 程】 平成24年2月21日（木）～2月24日（日） 3泊4日

【訪問団】 22名（団長：恩納村立恩納中学校長）
中学生 17名（男 9名 女 8名）
引率者 5名（恩納村各中学校 3名 教委事務局 2名）

【交流日程】

2月21日（木）

- ・ 新千歳空港着
- ・ 宿泊（シャトレーゼ ガトーキングダムサッポロ）
- ・ 歓迎式（庁舎ロビー）

2月22日（金）

- ・ 学校間交流
花川南中学校との交流
（市・学校紹介、文化交流、給食）
- ・ 除雪体験・平和に関する意見交流会
- ・ 民泊対面式 生徒は民泊
- ・ 恩納村交流団引率者歓迎会

2月23日（土）

- ・ スキー体験（手稲オリンピックスキー場）
- ・ 札幌市内のホテル宿泊

2月24日（日）

- ・ 札幌市内観光
- ・ 新千歳空港発

<報告事項 2>

平成24年度 石狩市教職員研修「ウインターセミナー」実施報告について

1. 日 時 平成25年1月11日（金）13：30～16：00
2. 会 場 花川北コミュニティセンター
3. 内 容 講座名「崩壊しない学級づくりと日常授業の改善」
講 師 野 中 信 行 氏
4. 対 象 小中学校教職経験10年以下の教諭及び期限付き教諭
*初任者指導担当教諭、教務主任等、若手指導の立場にある教職員等



5. 受講人数 67名 （対象者及び*印を含む全体の参加者は、161名）

アンケート集計結果

（10年以下 小学校40名 中学校27名 回収率100％）

質 問 項 目	回 答	小	中
1. ウインターセミナーを著名な実践家を招いての講演会形式で行いましたが、どうでしたか。	とても満足	60.0％	44.4％
	だいたい満足	35.0％	48.1％
	やや不満	2.5％	2.5％
	不満	2.5％	2.5％
2. 本日の講演は明日からの実践に役立てることが出来ますか。	すぐに実践したい	35.0％	22.2％
	取り組んでみたい実践がある	50.0％	55.5％
	条件を整理してから取り組みたい	12.5％	18.5％
	実践するのは難しい	2.5％	3.7％

《自分の実践に生かしたいこと》

- ①「フォロー」「日常授業の改善」「目標達成法」「分割法」「子どもが主体的に活動できる集団作り」「学級づくり3原則」「学級づくりのシステム」「アウトプット」複数回答
- ②子ども達との関係づくりや集団作り（3原則）について非常に勉強になった。自分自身の足りない部分が再認識できたので実践に生かしたい。
- ③授業づくりについて再考し教材研究を工夫していきたい
- ④いろいろな人に授業を見てもらいアドバイスを頂き、もっとよくなる方法を知りたい。また多くの先生の授業を見て学び成長したい。やるべきことはまだまだたくさんあると実感した。
- ⑤「フォロー」の大切さ、「分割法の授業」、「活動を取り入れた授業」を工夫したい。
- ⑥アウトプットを盛り込んだ授業。私の授業はインプットばかり。これから変えていこうと思う。
- ⑦目標達成法～子どもが見てわかるように花をつけていく方法がとてもよかった。
- ⑧子どもとの関係づくりの「縦糸」「横糸」双方を頭に入れながら、学級づくりをしたい。
- ⑨学級の活動を「システム化」という視点で見直したい。
- ⑩学級の基盤づくりを大切にしたい。
- ⑪挙手発言が目立つ構成の授業を見直し、活動を増やす工夫をして日常授業の改善に努めたい。
- ⑫「子ども達の前で機嫌よくふるまえるか」は心に残った。冬休み明けは笑顔で接したい。
- ⑬「学級のシステム」づくりと「集団化の手立て」について課題だと思い、頭を悩ませる毎日だった。今日はまさに、そのための手立てを学ぶことができた。学級の実態に合わせて工夫し実践したい。「日常授業」の取組について普段自分が考え、実践してきたことと同じこと近いことが紹介され、背中を押して頂けたような気がして少し自信が持てた。今日の内容を参考に、今後も教材研究に励みたい。

＜報告事項 3＞

浜益区における暴風雪による教育施設の被害について

1. 発生状況

平成25年1月3日深夜、浜益区で瞬間最大風速40メートル近い暴風雪が発生。はまます郷土資料館及び旧浜益中学校校舎に被害が発生した。

2. 被害状況

(1) はまます郷土資料館

- ・屋根トタン剥離（3カ所）
- ・壁板脱落（1枚）

(2) 旧浜益中学校

- ・屋体棟屋根剥離（大規模な被害（30m×4m＝目視））・窓ガラス破損

3. 対応経過

1月 4日 はまます郷土資料館の屋根剥離部分のうちトイレ付近のトタンを応急措置として仮止め。

1月 7日 建設部と今後の対応について打ち合わせ

出席者：建設部建築課長、建築担当主査、教委総務企画課課長、施設担当主査、文化財課長）。その後、建築課において建設業者に見積書作成を指示。

1月15日 建設部経由で応急修理の見積書が提出。財政部と協議、必要な応急修理は予備費を活用する方向。

4. 今後の対応

(1) 応急的な対応

応急的な対応により、破損部の拡大と屋根トタンの飛散等による二次被害を防止する。ただし、破損部が高所（屋根）のため、施工には天候の安定化と足場等の整備が必要で、実施時期を見極めながら可能な限り早急に対応する。

(2) 中期的な対応

はまます郷土資料館は屋根トタンの全面的な張替工事が必要と考えられる。トタンの下にある野地板の破損状況を把握し、工事内容と費用を検討する。



旧浜益中屋体内部から見た状況(発生時)



旧浜益中屋体外部から見た状況



屋体に保管されている資料の状況



屋体に保管されている資料の状況



旧浜益中屋体外部から見た状況



はまます郷土資料館の状況

平成24年度全国学力・学習状況調査「石狩市における結果の概要」の公表にあたって
石狩市教育委員会 平成25年1月9日

全国学力・学習状況調査結果「石狩市における結果の概要」に関する市民の皆様への公表につきましては、平成23年度までは、「全道と石狩市」の状況について比較し、課題や今後の指導の改善などについてお示しして参りましたが、今年度は、子ども達の学力向上のために、市民の皆様と情報を共有し、学校・家庭・地域が一体となって、連携、協働して改善に取り組むことが、何よりも大切であるとの視点に立ち、新たに「全国・全道と石狩市」の状況について、道教委が示している9段階で比較し、課題や今後の指導の改善、学習や生活習慣の確立の必要性などを明らかにしたほか、特に「石狩市の学力の現状と課題の克服を目指して」を掲載し、市民の皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げることとしたところです。

- * 子どもたちへの「生きる力」の育成を図るためには、「確かな学力」「豊かな心」「健康・体力」のより高い調和が求められており、公表する資料の学力についてはその一部と考えています。
- * 公表の仕方については、市町村により異なります。
学力の向上には、学校の取組みに加え、家庭や地域の協力、連携が必要であり、そのためには情報の共有が不可欠です。
そのため、本調査の結果をお知らせすることにより、本市の教育への関心を高め、市民ぐるみでの教育を考えるきっかけとしたいと考えています。
- * 公表内容等については、公開性を高め、また、できる限り分かりやすくなるよう教育委員会会議等において議論を重ね工夫に努めています。

□ 学力向上に関する取組等

- * 市教委では、平成22年3月に石狩市教育プランを策定し、学校、家庭、地域などの連携のもと、子どもたちに、自ら学び、考え、行動できる「自立した人間」として生きていけるよう、「確かな学力」を育むことを目標に掲げ、これまで道教委の学力向上関連事業を活用し、市単独事業と組み合わせて積極的に展開して参りましたが、石狩市の子どもたちの学力は、依然として全国平均を下回っており、厳しい状況にあります。
- * 道教委では、全国どこの地域において学んだとしても、学習指導要領の内容を身につけることができるよう、教育の機会均等とその水準の維持向上を図る考え方にに基づき、市町村教育委員会との連携の下、総合的な学力向上策を推進しています。

□ 今後に向けて

現在、石狩市の子ども達の学力は、厳しい状況にありますが、これまで取り組んできた読書活動の外、放課後や長期休業中を活用した補充的学習における積極的な取組み、更には授業改善・指導形態の工夫などが着実に図られておりますので、市教委では、市民の皆様と危機意識を共有し、ご理解とご協力を賜りながら、学校・家庭・地域が一体となって、連携協働して改善に取り組むことにより、今後必ずや学力の向上が図られるものと信じ、全力をあげて取り組んで参ります。